千葉県　グループホームつくし　　記入日　平成20年12月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各自がその人らしい暮らしができ、当グループホームが地域社会の中の一員として自立し、融合することを理念に掲げ、実現に向け努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示や職員会議での再認識等により職員間での共有を図っている。職員は運営理念実現に向け日々の介護場面で常に意識し、振り返りながら接している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時に理念を分かりやすく説明し理解を得るよう心がけている。また、外来者の目に付く場所への掲示や運営推進会議の活用により理念の浸透に努めている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日課の散歩時は、近所の方と挨拶や立ち話をしたりと、顔なじみの関係が築けている。また、定期的に近隣の民宿や商店等に出向き、他者との交流を図っている。	○	近所の方が立ち寄る機会がない。気軽に寄れる仕組みを検討中である。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が地元で古くから民宿を営んでいたため、地域との関係は良好である。地域のお祭りやごみゼロ運動への参加による交流を図っている。 前回目標にした老人クラブとの交流には至っていない	○	区長との連携を図り老人クラブとの交流を図っていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市高齢者支援事業への賛同、特養などの福祉施設に出向き、ボランティアや演芸披露を行っている職員もいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価、外部評価の必要性、意義を理解している。特に自己評価については全員で取り組むことにより、職員間のコンセンサスを図る良い機会と考える。評価については入居者がより快適に暮らせるよう活かし、サービスの質向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況や行事等の報告を行っている。今後取り組みたい事項や外部評価結果等について話し合い、意見・助言を頂きサービス向上につながるよう努めている。 会議メンバー数名が仕事をされており、日程調整に苦慮している。	○	全員参加は困難と思われるが、各メンバーの負担にならぬよう調整しながら参加を促し、有意義な会議になるよう努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の担当課への状況報告提出の際に最新情報の入手、意見交換を行っている。また地域包括支援センターや各入居者の保険者担当課とも連携を深めるよう努力している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性・重要性については定期的に会議の中で話し合い、全職員が理解している。現在1名が成年後見制度を利用されている。 毎月来訪される後見人から制度の仕組みや実際について学び、職員への周知に努めている。 前回目標にした権利擁護関連の外部研修については参加することができなかった。	○	権利擁護関連の外部研修に積極的に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止や苦情解決、リスクマネジメントの各マニュアルの活用により、会議での話し合いやその都度確認し合い職員間での意識統一を図っている。 また、担当医との連携による個々の適正な投薬や対応に努めている。	○	更なる虐待防止への意識高揚と言葉使いなど、職員間で指摘しあえる環境に心がけていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ分かりやすく説明し、不安や疑問点についても気軽に尋ねて頂けるよう心がけ、理解・納得を得られるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を内・外部に設置しているが、一部の入居者のみで入居者全員が不満や要望を表出できる環境にはなっていない。	○	引き続き、意思表示の困難な方へのコミュニケーションを深め、しぐさ等から個々の特徴をつかみ対応していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ホーム便りによる入居者個人別の暮らしぶりの写真、最近の様子等郵送にて報告している。あわせて職員の異動があった場合についても報告をしている。金銭管理については、「預かり金管理規程」に基づき適正に報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を内・外部に設置しており、事業所内に掲示し周知を図っている。また面会時や運営推進会議での意見などを運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議にて意見・提案を聞いている。また代表者や管理者は気軽に意見を言える雰囲気作りに心がけ、運営に反映できるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な状況変化に対応できるような人員配置と、入居者の状況等に応じ勤務を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため職員の異動はない。離職については必要最小限に抑える努力をし、代わる場合はダメージを防ぐよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、職種、経験別に適した研修への参加及び実施に努めているが、外部研修が不十分であった。職場内研修は入居者のADL低下、重度化にあわせ、職員会議時や働きながら適宜実施し職員のスキルアップを図っている。	○	職種経験に見合った外部の研修に積極的に参加しケアに活かしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市高齢者支援事業、グループホーム連絡会の交流会などへの参加を通じて交流を図り、サービスの向上に努めている。また近隣の特養や居宅介護支援事業者等と連絡や相互訪問により意見交換を行っている。近隣同業者との交流を目標にしたが実施に至らなかった。	○	近隣同業者や関係事業所との交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員との食事会や個別面接などにより率直な意見、不満を聞く機会を設けている。また日常業務においても休憩時間・場所の確保とその場で意見できる環境に努めストレス解消を図っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	代表者は常に各職種の勤務状況の把握に努め、経験や実績と個々の長所を活かし、士気の高揚を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が安心・納得して入居出来るよう本人の思いを受け止め、不安感を取り除けるよう傾聴に努め暫定プランに反映させている。また場合により信頼関係が築けるよう事業所側のキーパーソンをつくっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前での面談から、困っていること、求めていることなどを把握し、丁寧に説明することにより、家族に安心・納得して頂けるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人の状況や本人・家族の意向と、関係機関の見解も考慮に入れ、客観的に最善の対応ができるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は本人の入居にあたっての心情を理解し、他入居者との円滑な関係が築けるよう仲介・見守る。また必要に応じ、家族への入居間もない間の面会を依頼する場合もある。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活やレクリエーション場面において、職員が励まされたり、教えて頂いたりと入居者と職員又は入居者同士が馴染みの関係にある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にも一緒に悩んだり喜んだり、相談し合える関係作りに努めているが、数名の入居者ご家族とは電話や文書のみでのやりとりとなってるため、直接職員がコミュニケーションを取れていない。	○	面会のない遠方の家族との信頼関係が築けるような仕組みを検討中である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	全職員が入居前の本人と家族との関係を理解するとともに、入居後も電話や面会時を利用し家族間の関係把握に努め、職員間でのコンセンサスを図り、良好な関係が継続できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族より情報を得ながら、昔からの友人との電話のやり取り、自宅、馴染みの場所への外出など出来るだけ関係が継続できるよう支援している。	○	入居者9名のうち、8名が他市町村の方で、要望に応えられない場合があり課題となっている。今後は家族とも調整しあいながら関係継続に努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に入居者間の関係把握に努め、その場に応じた話題づくりや声かけ、仲介により孤立することなく関りあえるよう支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に入所された方への面会を行っている。必要に応じ関係は継続したいと考えるが、現在は契約を終了された方、ご家族とのつながりはない。	○	契約を終了した方や家族と必要に応じ関係継続に努めたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の希望、意向の把握に努めている。記録に残し職員間での統一認識を図り、実現に向け取り組んでいる。意思疎通困難な方については、家族の意向や要望を参考に職員間で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係者から伺い把握している。また日常のコミュニケーションや都度家族からの情報により把握するよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録、業務日誌をもとに個々のその日の様子を総合的に把握している。また特記事項については、より分かりやすくするため色分けや別表示し職員間でのコンセンサスを図り、プランに反映させている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の希望やできることを大切に、目的思考型計画になるよう本人、家族と全職員でアセスメントから関わり、意見を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間毎に見直すとともに、必要に応じ本人、家族、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきなどは個人記録に記入し、情報の共有化と実践、介護計画への反映に活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	送迎、付き添いなどの通院支援、福祉タクシーの手配、福祉用具の相談・購入など、必要に応じ柔軟な対応をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	旅行やイベント時にボランティアの方に協力を頂いているほか、消防署との避難訓練を定期的に実施している。	○	駐在所や民生委員の推進会議参加により今後更なる連携と地域における協働を模索していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や必要性に応じて、他のサービスを利用する場合は、本人、家族の納得が得られ、円滑なサービス移行となるよう関係者との連携に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度、介護保険制度の解釈や判断に苦慮する事例について地域包括支援センター担当者に助言や指導を受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ家族にも来院して頂き、かかりつけ医、事業所間での連携と信頼関係が築けるよう支援し、相互が納得の得られた医療を受けられるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医より認知症の知識、諸症状への対応方法、薬の知識など都度アドバイスを受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師により入居者の健康管理や医療の活用支援を行っている。また看護師へ入居者本人、家族、職員が気楽に相談できる雰囲気作りに努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医師、看護師、PTなどと早期退院にむけ入居者の情報を交換し合っている。また職員が交代で面会し精神面でのフォローと状況確認を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	数名の入居者、家族からは終末期について話し合い、意向確認できているが、全員の方針についての把握には至っていない。	○	家族面会時に負担にならないよう努めながら、終末期についての話す機会を設け意向を確認していきたい。面会頻度の少ない家族とのコミュニケーションが課題である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師を中心に今後の方針として定期的に話し合っているが、実際の場面での対応には不安がある。また医師を含めたチームとしての基準や判断の明確化も不十分である。	○	個々の意向に応じた柔軟な対応ができるよう、統一認識と担当医、家族を含め対応の明確化を図っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去の際は、本人、家族及び関係機関と十分な情報交換を行い、納得のもと住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対しての言動については虐待防止マニュアルにも明記し、プライバシーを傷つけないよう徹底している。また記録などの個人情報の取り扱いについては十分配慮し保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者個々に応じた声かけ、支援を行い、意思表出を図っている。また負担やストレスにならないよう注意しながら、自己決定の場面を積極的に作っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活は必要と考える中、時間割業務にならないよう入居者の希望、ペースにあわせ過ごせるよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望や趣味に沿った身だしなみとなっている。同じく理美容も自宅近くの美容院へ行く方、職員行きつけの理容店を希望される方など様々である。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスに留意しながら、畑で取れた食材や季節のものを取り入れた献立にしている。また、BGMによりゆったりとした食事時間となっている。食事の準備、片付けは役割が決まっており、職員と共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品についての規制はない。本人からの希望を聞き、献立やお茶の時間を利用し提供している。外食や旅行時のみお酒を飲まれる方もいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、事前誘導することにより、失敗防止やオムツは外しにつながるよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と概ねの時間帯は決まっている。入浴順はその都度くじ引きで決めており、個々の状況や希望に応じ臨機応変変更している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間や日中居室にて休まれる場合は室内温、音や暗さに配慮し安眠できるよう支援している。習慣のない方を除き、休息の時間を設けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じた役割が日課としてあり、日々の生活の張り合いになっているが、以前に比べて身体機能やコミュニケーション能力の低下が顕著であり、負担やストレスになっていないか適宜確認が必要である。周囲の環境を活かした散歩はよい気分転換になっている。	○	各自の能力を的確に見極め、本人や家族の希望とあわせその方らしい生活ができるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全職員がお金を持つことの大切さを理解している。現在は1名の方を除き、職員サイドでの管理となっている。お金を使用する際もストレスにならぬよう個々の能力に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は全員での散歩が日課となっている。長距離歩行が困難な方には車椅子、歩行器を使用するなど外出の機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望により、入居者同士またはマンツーマンでのショッピングやドライブ、自宅等に出かけている。また年1回の一泊旅行や花見などの季節毎のイベントは入居者と共に行き先を決めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りの仲介役や手紙の投函など、家族や友人との関係が継続できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時は希望に応じた面会場所とお茶を用意し、ゆっくりと会話できる環境に努めている。また必要に応じ本人の最近の状況報告をしコミュニケーションを図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止マニュアルを基に全職員が身体拘束の弊害を理解している。言葉使いやハード面での工夫、医師との連携により縛らないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	虐待防止マニュアルを基に全職員が玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。日中外出を希望される場合は職員が付き添うが、今後一度に複数の外出対応には不安がある。　鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	その都度状況（時間帯、職員数）に応じた取り決めや判断の統一を図っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員が安全配慮義務を理解している。プライバシーに配慮しながら、職員間でのコミュニケーションを密に取り各入居者の所在や様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に応じ、注意が必要な物品は目の届かない場所に保管するなど事故防止に努めている。また定期的に見直し判断している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的なリスクマニュアルの確認とヒヤリはっとの活用により事故防止と意識高揚に努めている。また看護師や消防署職員などから助言や専門知識を学ぶよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救命講習を定期的に受講し事故発生時に備えている。またリスクマニュアルにより緊急時の対応の統一・共有化を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各居室や事業所内に避難経路を掲示すると共に、定期的な避難訓練にて避難方法が身につくよう努めているが、コミュニケーション能力の低下がみられる入居者への実際の対応に不安がある。訓練の際は地域の方々の参加があり、協力と理解を得られるよう努めている。	○	重度化が懸念されるなか、入居者が避難方法を身につけることは困難のため、職員の更なる避難方法の熟知と意識の高揚を図りたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	介護計画上に個々の想定されるリスク、対応について家族へ説明し理解を得ている。また状態に応じ、都度家族へ報告し対応を協議している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、様子観察により、異常の早期発見に努めている。変化がある場合は昼夜問わず看護師を中心に、対応の共有化と必要に応じ医療機関受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は個々の薬に関しての情報を把握している。また常に確認できるよう個別のファイルを整備している。薬の変更等ある場合は記録で引継ぎ、必要に応じ症状を医師へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、毎日の体操、散歩等適度な運動と朝の牛乳、ヨーグルトやバランスのとれた食事の提供とあわせ、医師との相談の上、薬剤での調整をしている。　排便コントロールの難しさを感じている。	○	外出できない夏・冬期時の運動不足が課題である。他事業所のケアも参考に検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各自の能力に応じ職員が援助し、毎食後の口腔洗浄と夜間の義歯消毒を行っている。また歯科医による治療や助言を頂き口腔ケアに努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分摂取量をチェックし把握している。体重の変化にも留意しながら各自に合ったバランスのとれた食事と適切な量に心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員と共に来訪者へのうがい、手洗いの励行、居室内、事業所内の消毒など、感染症防止マニュアルにより予防と発生時の迅速な対応ができるよう備えている。またインフルエンザ予防接種は入居者と職員全員が摂取している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理時のエプロンの使い分け、調理器具の定期的な除菌洗浄、手洗いの促進等により食中毒予防に努めている。特に新鮮な食材と適切な保存・調理に力を入れている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関出入り口のバリアフリー、手摺り・ベンチの設置など安全に配慮している。また玄関先や建物周辺には花壇や野菜などを栽培する畑があり入居者、ご家族の話題づくりになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での不快な音や光がないよう配慮し、四季を感じられる花や装飾品、書道や写真の掲示など話題作りと居心地よい環境整備に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係、相性の把握によりテーブルの数・配置を工夫した。また共用空間には3人掛けソファーを3脚設置してあり、気の合った友人や職員と談笑している。独りでの時間は自室を利用している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れた家具や、馴染みの物品を持ち込んで頂くよう努めている。また配置については使いやすさと危険防止に配慮しながら本人、ご家族と相談の上で居心地のよい空間作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に窓の開閉やエアコンの温度調整により換気や室内温の調整をし、季節により除・加湿器を設置し快適な空間になっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリー、要所への手摺りの設置、個々の導線を考慮した居室の検討など自立生活への工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各所の分かりやすい表示や目印により混乱や失敗を防ぐよう工夫している。また個々の分かる力を把握し、自立生活に向け援助を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者は建物周辺の花壇にある季節の花や、ベンチに座り気分転換や日向ぼっこを楽しんでいる。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・目標指向型思考（入居者個々のその人らしい生活の実現・維持　認知症の進行、ADL低下、麻痺などマイナスに捉えず、出来ること、分かることを認めて着目していく。